

調査研究事業

「小学校自然体験活動モデルプログラム開発事業」 坂梨やんちゃ教室

[主催]	国立阿蘇青少年交流の家
[後援]	熊本県教育委員会・阿蘇市教育委員会
[協力]	阿蘇市立坂梨小学校
[期間]	平成21年6月29日（月）～7月4日（土）5泊6日
[会場]	国立阿蘇青少年交流の家及びその周辺
[参加状況]	阿蘇市坂梨小学校5年生男子5名 女子15名 計20名
[講師]	阿蘇ロータリークラブ 志賀 昭男 氏 国立阿蘇青少年交流の家研修指導員 藤井 法行 氏 国立阿蘇青少年交流の家研修指導員 薄井 良文 氏
[検討委員会委員]	千葉大学教育学部教授 明石 要一 氏 熊本県阿蘇教育事務所指導主事 栗原 邦広 氏 阿蘇市教育委員会教育部長 岩下 哲郎 氏 阿蘇市教育委員会審議員 石本 明史 氏 阿蘇市立坂梨小学校長 星山 晃 氏 阿蘇市立坂梨小学校5学年担任 杉本 宗郎 氏



1 趣 旨

青少年の成長段階においては、多くの人や社会、自然などと直接ふれあう体験をとおして、善悪の判断などの規範意識や倫理観、社会性や命の大切さ、他人を思いやる心といった豊かな人間性を育む必要がある。また、小学校学習指導要領の改訂に伴い、より一層長期自然体験活動が重視されている。このような観点から、小学校での長期における自然体験活動の必要性が高まっている。

そこで、行政担当者や学識経験者、協力校の小学校と連携し、効果的な体験活動プログラムを開発するとともに、円滑な事業運営を図るための諸条件の研究をとおして成果を検証し、今後、宿泊をともなう自然体験活動を小学校の教育課程の中に位置づけるなどして、公立青少年教育施設等が研修支援事業として実施できるように普及を図る。

2 目 標

- (1) 学校（担任）の負担が大きくなりすぎないように、児童の安全管理体制や活動の運営体制を確立し、支援体制を充実させる。
- (2) 小学校長期自然体験活動を実施するにあたって、授業時数の確保等、各校が実現可能なモデルプログラムを開発する。
- (3) 長期宿泊体験における共同生活の場をとおして参加者児童の自主性を育む。
- (4) 児童がお互いに協力する活動や、児童一人一人が自ら考え、その考えを仲間同士で伝え合うような活動を実施することにより、思いやりの心や意志決定の力を育み、児童相互の人間関係を広げ、深めるようにする。



3 事業の実際

(1) 研修プログラム 【5泊6日の自然体験モデルプログラム】

1日目	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	
							朝食	入所式 オリエンテーション・ アイスブレイキング	野外調理						入浴・洗濯 ふりかえり	就寝 準備	
2日目	起床	野外調理			基地作り			朝食	基地作り						つどい・入浴・夕食・洗濯	スタンプ の練習 ふりかえり	就寝 準備
3日目	起床	野外調理			メダカの捕獲・観察			朝食	メダカの 捕獲・観察	基地作り			つどい・入浴・夕食・洗濯	スタンプ の練習 ふりかえり	就寝 準備		
4日目	起床	野外調理			ディスク ゴルフ	基地の 説明	7.2集会 (仮設校舎開校行事)	朝食	基地の 説明	基地作り			つどい・入浴・夕食・洗濯	スタンプ の練習 ふりかえり	就寝 準備		
5日目	起床	野外調理			基地作り 深登り 準備・移動	沢登り		朝食	沢登り			沢登り片付け・ 移動・休憩	つどい・入浴・夕食・洗濯	キャン プ ファイ アー	就寝 準備		
6日目	起床・ つどい	朝食	退所準備	作文		ふりかえり	退所式										

(2) 目標達成のための工夫点

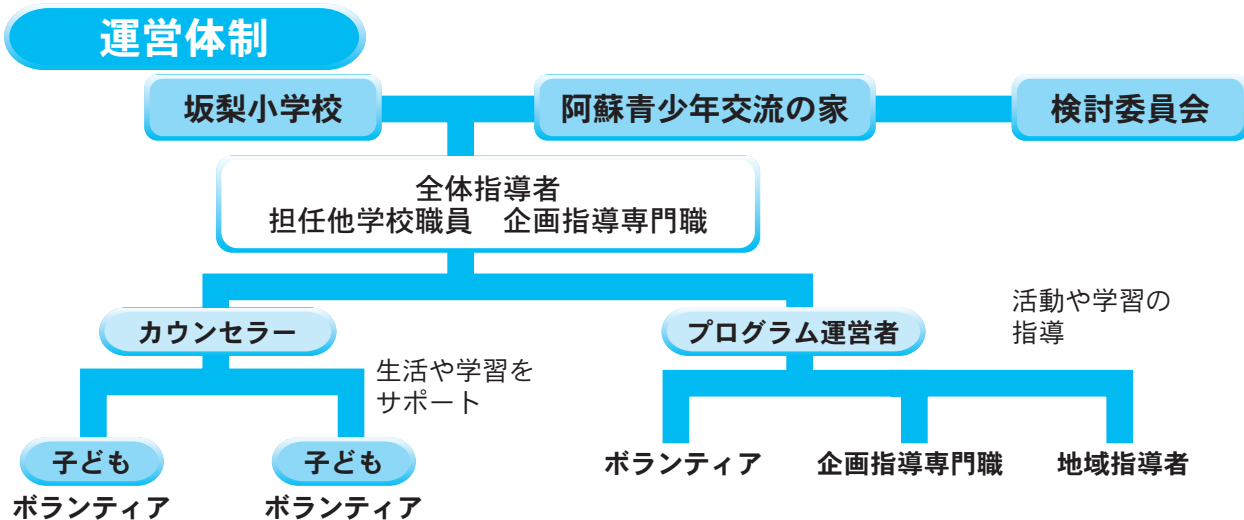
① 検討委員会の実施

小学校自然体験活動モデルプログラム事業の充実を図るために、大学の学識経験者・県教育委員会・市教育委員会・協力小学校の関係者と交流の家職員から構成される検討委員会を次の内容で実施した。

回	開催期日	主な内容
1	6月15日	小学校自然体験活動モデルプログラム開発の視点，基本計画について
2	12月21日	モデルプログラムの成果と課題，普及について

② 効果的な運営体制

長期にわたる集団宿泊研修の課題として、活動時間だけでなく、児童の安全管理や生活指導等、引率職員の負担が大きくなることが予想される。そこで、次のような運営体制で児童の学習指導・支援にあたった。



③ 授業時数の確保と児童の生活や学習への指導體制

長期にわたる宿泊学習となると、授業時数の確保や担任の負担が大きくならないような運営が重要になってくる。

そこで、授業時数の確保については、学校行事や特別活動の時間だけでなく、教科学習に体験的な活動を取り入れて授業時数を確保できるような工夫を取り入れた。また、担任や学校職員の負担が大きくならないような手立てとして、施設職員やボランティアが学習面や生活面の指導・支援を行った。活動の内容によっては、外部講師（地域の指導者）を活用し、効果的な指導體制を築いた。

【5年生の週時数 29時間のところ坂梨やんちゃ教室では30時間を計上】

1日目：学級活動1時間	計	1時間
2日目：家庭科3時間，図工6時間	計	9時間
3日目：理科3時間，図工3時間	計	6時間
4日目：体育1時間，学校行事1時間，図工3時間	計	5時間
5日目：図工1時間，体育5時間	計	6時間
6日目：国語2時間，学級活動1時間	計	3時間
	計	30時間



【各教科等の単元名と時数】

- 国語（目的に応じた伝え方を考えよう 2時間）
- 理科（生命のつながり〈メダカやヒトの誕生〉3時間）
- 家庭科（ごはんのみそしるを作ってみよう 3時間）
- 図工（ダイナミックスペース〈基地作り〉13時間）
- 体育（ディスクゴルフ〈体づくり運動〉1時間，沢登り〈体づくり運動，水泳〉5時間，計6時間）
- 学級活動（オリエンテーション1時間，ふりかえり1時間，計2時間）
- 学校行事（7.2集会〈坂梨水害慰霊行事〉1時間）

【教科学習や活動における担任や学校職員・専門職・地域の指導者・ボランティアスタッフのかかわり】

【坂梨やんちゃ教室の活動プログラム】

		7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
1日目	活動						昼食	入所式	オリエンテーション	野外調理			入浴・洗濯	ふりかえり	就寝準備	就寝
	教科・特活 主な指導者							担任	学級活動1h	専門職	専門職	専門職	専門職	専門職	専門職	専門職
2日目	活動	野外調理	基地作り				昼食	基地作り	図工4h	つどい・入浴・夕食・洗濯	スタンプの練習	ふりかえり	就寝準備	就寝		
	教科・特活 主な指導者	専門職・担任	専門職					専門職	専門職	ボラ・学校職員	専門職	専門職	ボラ			
3日目	活動	野外調理	メダカの捕獲・観察				昼食	メダカの捕獲・観察	基地作り	つどい・入浴・夕食・洗濯	スタンプの練習	ふりかえり	就寝準備	就寝		
	教科・特活 主な指導者	専門職・担任	地域の指導者					理科1h	図工3h	地域の指導者	専門職・担任	ボラ・学校職員	専門職	専門職	ボラ	
4日目	活動	野外調理	ディスクゴルフ	基地の7.2集会			昼食	基地の説明	基地作り	つどい・入浴・夕食・洗濯	スタンプ	ふりかえり	就寝準備	就寝		
	教科・特活 主な指導者	専門職・担任	担任・学校職員	担任	地域の指導者			担任	担任	ボラ・学校職員	専門職	専門職	ボラ			
5日目	活動	野外調理	基地作り	沢登り			昼食	沢登り	体育4h	つどい・入浴・夕食・洗濯	キャンプファイヤー	就寝準備	就寝			
	教科・特活 主な指導者	専門職・担任	担任	地域の指導者				地域の指導者	ボラ・学校職員	専門職	専門職	ボラ				
6日目	活動	つどい	朝食	退所準備	目的に応じた伝え方	ふりかえり	退所式									
	教科・特活 主な指導者	専門職	ボラ	ボラ	国語2h	学級活動1h	担任									

④ 失敗体験をとおして達成感を味わわせ，自主性を育てる取組

1泊2日や2泊3日の宿泊を伴う体験活動では，児童が様々な活動を体験するだけで，時間の制約が大きい。また，スタッフは失敗を避けるための指導を十分にを行い，担任・スタッフが手を出している現状にある。しかし，長期にわたる自然体験活動では，児童が失敗体験をもとに自らが考え，工夫し，やり直す時間を十分に確保することができる。そこで，失敗体験を生かして再チャレンジし，成功につなげて達成感を味わえるプログラムとして，5回の「野外炊飯」を設定した。また，児童自らが考え，工夫し，やり直すような活動をとおして，自主性を育みたいと考えた。

【児童の自主性を育成するための担任・職員・スタッフの共通理解】

- ライスクッカーの使い方については指導するが，火のつけ方や薪組については，スタッフの活動する様子を見させ，スタッフは必要以上のアドバイスや手を出さない。ただし，火や刃物を使うため，安全面に関する事項については随時指導する。
- 時間の活動については掲示板を使い，児童自らが掲示板を見ながら活動できるようにし，できるだけ個別の指示は行わないことで，自主性を育むようにする。

- ⑤ 思いやりの心や意志決定の力を育てる取組
 学級の実態や学級担任の願い，検討委員会での話し合い等から，この坂梨やんちゃ教室を通して，思いやりの心や意志決定の力を育てることとした。

思いやりの心を育てるための活動として，沢登りを取り入れた。沢登りは，仲間同士で手と手を取り合い，声を掛け合いながら協力して活動する場面が多い。このような活動をとおして，思いやりの心や互いに助け合おうとする態度を育てるようにした。

また，意志決定の力を育てるための活動として，グループごとに基地作りを行うようにした。基地の作り方やデザインについて一人一人が考え，その考えをグループの仲間同士で伝え合うようにしながら基地を作成する。このような活動をとおして，意志決定をする力を育てるようにした。



作成中の基地と子どもたち

4 結果

児童の変容については，事前・事後・3ヶ月後・5ヶ月後の意識変容をIKR（生きる力）アンケートと千葉大学教育学部明石研究室作成のアンケートをもとに調べた。担任については，運営体制に関するアンケートや事業1ヶ月後アンケート，児童の学校生活についての聞き取り調査を実施した。保護者からは，事業1ヶ月後アンケートにより，情報を収集した。

(1) 運営体制に関する担任へのアンケート結果

問：教科学習や生活指導，安全指導を行う際に交流の家職員や地域指導者，ボランティア等がサポートする運営体制は，担任の負担減につながったと思いますか。

■ 思う □ だいたい思う □ あまり思わない □ 思わない

【「思う」と答えた理由】

施設の職員と児童の実態や活動内容について十分に話し合ったことにより，負担を感じることなく子どもたちの実態に応じた効果的なプログラムを立てることができた。また，施設の職員や地域の指導者が主となって指導する活動も多かったため，活動中の児童の様子をしっかりと見ながら支援を行うことができた。

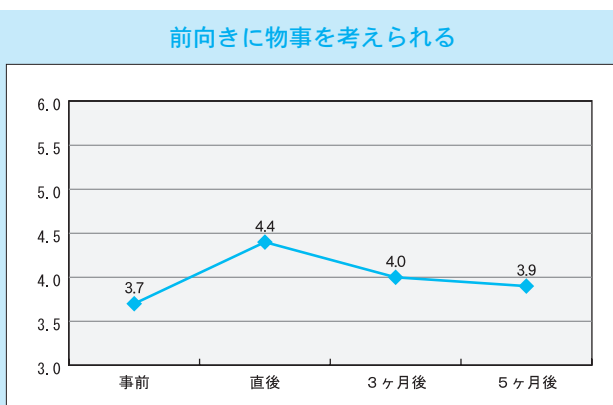
施設の職員や地域の指導者，ボランティアが沢登り等の野外活動の指導・支援にあたったため，安全面の確保にも負担を感じることはなかった。

ボランティアや施設の職員も夜間の生活面の指導や支援にあたったことにより，担任としての負担が軽減した。

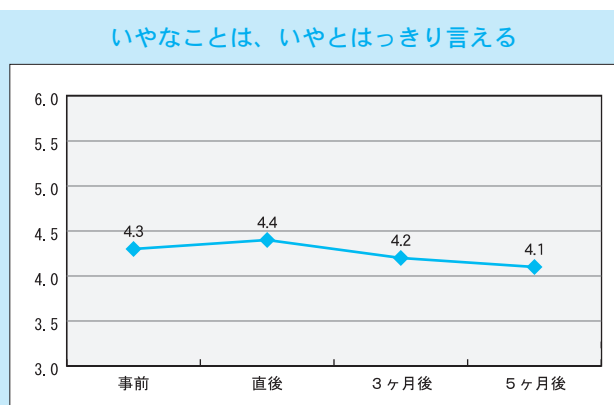
(2) 坂梨やんちゃ教室の目標（自主性・意志決定の力・思いやりの心の育成）に関わるIKRアンケートの結果（事前・事後・3ヶ月後・5ヶ月後の意識調査）

（6段階：6. とてもよくあてはまる→1. あてはまらない・・・学級の平均点を表記）

① 自主性に関する結果（グラフ1）

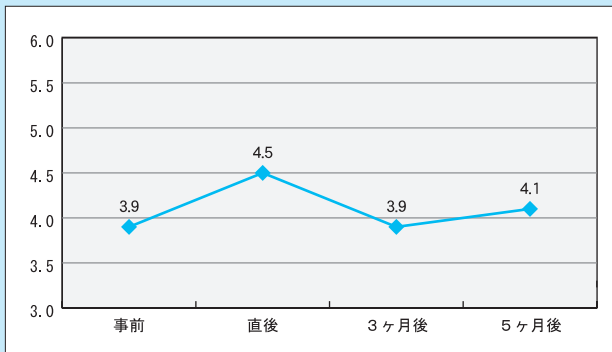


② 意志決定の力に関する結果（グラフ2）



③ 思いやりに関する結果（グラフ3）

人のために何かしてあげることが好きだ



完成した基地と子どもたち

③ 1ヶ月後保護者アンケート結果

問：お子様の様子に変化がみられたことがございましたらお書きください。

- 休日も規則正しい生活ができるようになった。
- 就寝前の戸締まり，消灯に心がけるようになり，家事の手伝いも上手になった。
- 食事や食材に関心をもち，食事のことにに関してよく聞くようになった。
- 人に対して優しくなった。
- さらに友達となかよくなり，いろいろな友達と活動するようになった。
- 友達との接し方に少し慣れた。
- 少し積極性が出てきた。

④ 1ヶ月後担任アンケート結果

問：児童の様子に変化がみられたことがございましたらお書きください。

- あいさつをする子が増えた。

問：今回の長期自然体験活動が，学級経営に役立ったことがあればお書きください。

- 友達同士が長期に渡って関わりをもったので，友達同士のつながりが深くなったように思える。そのことで，授業が進めやすい。

問：今回の長期自然体験活動を実施したことで，児童にどのような力が身に付きましたか。

- 本活動前は水泳の授業に参加しなかった女の子が，本活動後から水泳の授業に参加するようになり，プール最終日には31m泳いだ。



ふりかえりの様子







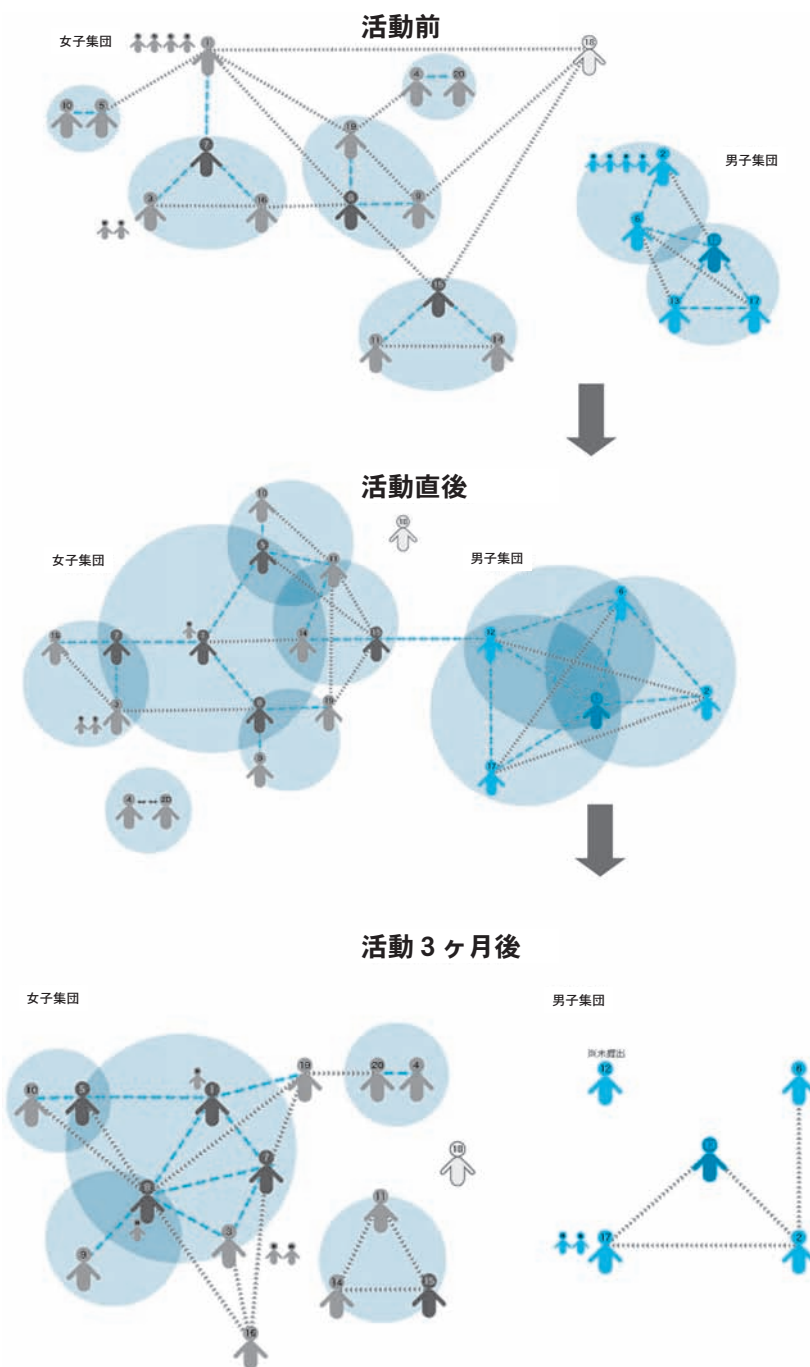
キャンプファイヤーでのスタンツ

(3) 児童の人間関係に関わるアンケート結果（ソシオメトリック）

① 質問項目「いつも一緒にいる人の名前を教えてください。」についての回答から、学級の人間関係を調べた。事前と事後、3ヶ月後のアンケートから、学級の人間関係や児童の人間関係を築く力について調査した。

（千葉大学教育学部明石研究室の事前・事後・3ヶ月後の調査）

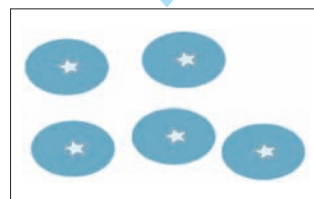
■ 自然体験活動		
 リーダー	 相互選択のない子 選択
 相互選択のある子	 クラス外の子	++++ 相互選択



活動前

キャンプ前は、小さな仲間集団が点在し、クラス内でのグループが明確である。各グループ間での選択はそれほどない。グループ内での相互選択が多い。

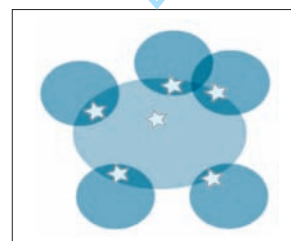
その中でも他グループから選択される子どもがいる。その子どもをリーダー（星形）とすると、下記のようなイメージになる。



活動直後

キャンプ直後は、グループごとの集団は依然保ちつつも、各グループのリーダーをつなぐパイプ役が出現した。リーダー同士の選択はないが、うっすらとまとまりのある大きな集団を形成しはじめた。

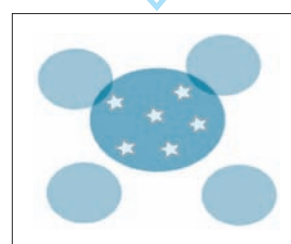
また、グループ同士のつながりもわずかではあるが見受けられた。



活動3ヶ月後

キャンプの3ヶ月後は、リーダー同士が相互選択をする大きな集団となっている。キャンプ前から続くグループは点在するものの、中心にリーダー集団ができたことが顕著である。

また、グループが事前と同じように大きな集団から離れて行ったものもある。



5 成果と課題

(1) 成果

- ① 坂梨やんちゃ教室において、児童は食事の準備や後片付け、洗濯など、自分のことを自分でする経験をした。また、グループで協力して取り組むような野外調理や基地作り、沢登り、活動後の振り返りにおいて、仲間と話し合い、自分の考えを述べるような経験をした。

I K Rアンケートでは、「前向きに、物事を考えられる」という自主性や積極性に関わる項目（グラフ1）や「嫌なことは嫌とはっきり言える」という意志決定の力に関わる項目（グラフ2）、「人のために何かしてあげることが好きだ」という思いやりに関わる項目（グラフ3）において、直後に数値の上昇が見られた。このようなことから、坂梨やんちゃ教室は、自主性や意志決定の力、思いやりの心を育成するきっかけになったのではないかと考えられる。

- ② 保護者アンケートでは、事業後に基本的な生活習慣の定着や思いやり、積極性等の変容について肯定的にとらえる記述が多く、本事業がそのような態度や力を向上させるきっかけになったのではないかと考えられる。（1ヶ月後保護者アンケート）
- ③ 坂梨やんちゃ教室の事前の小グループが事後には大きなまとまりのある集団に変容した。（活動前、直後、3ヶ月後のソシオメトリック）また、不登校傾向の見られる女子児童については、事業前は体育に進んで参加していなかったが、事業後は水泳や持久走等、体育に進んで参加するようになった。（1ヶ月後担任アンケート）

このことにより、坂梨やんちゃ教室は、児童相互の人間関係を育てたり、不登校傾向の見られる児童にとっては、自信や勇気を身に付けたりするきっかけになったのではないかと考えられる。

- ④ 1回目の検討委員会では、児童の実態や事業のねらい・計画について話し合い、2回目には成果や課題等について話し合った。本会により、大学の学識経験者や教育委員会の関係者、小学校の職員と本施設の職員が多様な意見を出し合い、様々な気づきを得ながら、連携して事業の充実を図ることができた。

(2) 課題

- ① モデルプログラムを普及するにあたり、沢登り等の活動については、安全性を確保するために、経験豊かな指導者やスタッフの育成、ヘルメットやライフジャケット等の装備を充実する必要がある。
- ② 活動支援としてボランティアを活用する場合、宿泊を伴う長期の自然体験活動は平日開催となることが予想されることから、平日に活動できるボランティアの確保を考慮していかなければならない。
- ③ I K Rの結果から、事業直後にはほとんどの項目で数値の伸びが見られるが、3ヶ月後、5ヶ月後には、多くの項目で実施直後の数値より低くなっている傾向が見られる。今後は、事業の効果が一層持続する工夫や学校への活動後の支援の在り方を明らかにし、実践していく必要がある。
- ④ メダカの捕獲・観察等を教科の体験的な活動として取り入れ、効果的な指導ができるように工夫したが、一層の普及を図るためには、さらに教科学習や総合的な学習の時間において、体験的に学ぶことができるプログラム開発に努める必要がある。

6 まとめ

本事業は5年生が20名の小規模校を対象に実施した。そのような中で、沢登りや基地作りなどの活動を設定し、ねらいに沿ったプログラムを開発することができた。しかし、少人数であったために実施できた活動もある。今後、このような自然体験活動を多くの学校に普及するためには、本事業を中規模校や大規模校を対象に実施したり、小規模校が合同で参加する形で実施したりし、多くの児童がねらいに沿って活動できるプログラムや支援の在り方を追究していく必要があると考える。



クワメダカの捕獲をする様子

企画指導専門職 福留 隆二